2023(令和5)年度　日本陸上競技連盟
全国競技運営責任者会議　議事録
2024年2月12日(月・休)13:00～16:30　オンライン開催

あいさつ

田﨑 博道 専務理事

日頃よりクオリティの高い競技運営にご尽力いただき敬意を表します。本日は、連休最終日といったなか、全国競技運営委員会にご参加いただきありがとうございます。

本会議は、昨年度の競技会における事例の検証、競技規則の修改正の議論をいただき2024年度の競技運営の指針を決める重要な会議であると理解しており、是非、活発なご議論をいただきたい。なお、現職に就き半年が経ち、全国各地の競技会に参加させていただく中、トラック&フィールド・マラソン及び競歩において、いかに多くの方々の支援及び社会の理解の上に成り立っているのかを強く認識した。本日の議事に競技会の実施報告もあるが、例えば、鹿児島国体では完璧に整備された競技場で、1日に600名を超える競技役員・補助員及びボランティアが5日間に亘って大会を支えている姿を目の当たりにし、心より感動し感謝するとともに、陸上競技ほど、人・モノ・社会インフラを要するスポーツはないのではと強く実感した次第である。現在、日本陸上競技連盟では、各地の競技会に伺い、地域・ブロック単位で加盟団体連絡協議会を実施しており、その場で深刻な実態が共有されている。それらの解決に向けた具体的な取り組みをいただいている中、物価の高騰、高品質化による価格の上昇、審判員をはじめとした競技運営の担い手の不足や人件費など、喫緊の課題が山積みになっていると認識している。審判員制度、競技場の公認検定制度や検定品の制度の見直し、先端技術の活用、柔軟な競技会運営などに加え、競技会の省力化も提起されている。皆さまのこれまでの積み上げがあったからこそ、現在の競技場があり、クオリティの高い競技会運営が実現していることに疑うところはなく、支えてきたこれまでの様々な制度や取り組みに対し、この価値を否定するものではない。その上で、ますます加速する環境の変化に制度疲労を起こさぬよう取り組んでいただきたい。何か一つを変えれば解決する訳ではなく、すべてが繋がっていることを理解しスピード感をもって対応していかなければ、数年後には、クオリティの高い競技会運営が叶わなくなってしまう懸念がある。私たちの責務は、陸上を愛するアスリートの皆さまに輝くステージを用意することだと考える。2025年には、東京で世界陸上が開催される。世界陸上を一つの進化のエネルギーとして、次の世界を作り上げていくことが我々の責務と考える。本日の議論を、具体的な行動に繋げていただきたい。また、時間を要しているが理事や専門員会のメンバーのほか、アスリートや外部の有識者を加えたプロジェクトもスタートさせる。さらに、アスリートセンターといわれるような取り組みとして、岐阜陸協に協力をいただき、現役を引退したアスリートとのコラボで来年度より日選手権の混成競技大会の企画にチャレンジしている。今後、陸連主催の事業にはアスリートの皆さまに企画から積極的に参画いただき、意見をいただきながら挑戦を続け進化してきたいと思う。そして、トルネードのように陸連として陸上界全体の行動を起こさなければと考えている。

事務連絡

町田 紀子 幹事

・マイク・カメラはOFF、発言時にONにしてご参加ください。
・画面の名前表示は、名前の後に所属を記載してください。
・質問される場合は、氏名所属をまずお願いします。
・チャットの書き込みは質問のみとします。

2024年度競技規則修改正提案

片岡 裕介 委員

＊最終的には、4月発行のルールブックで確認のこと。
＊「ワールドランキングコンペティション定義」での競技会分類に変更。
＊条文内容の移動・記載場所変更による、条文番号の変更・追加や参照条文番号の変更。
・CR3.1　WA関連競技役員の名称変更
・CR8　ITO’sとJTO’s →WAレフェリーとJTO’s
・CR9　IRWJ’sとJRWJ’s
・CR18.5　審判長の権限
・CR25.4　スタートリスト・結果に用いる略語
・CR25.5　TIC
・CR31　世界記録①　→　記録分類の変更(400mと200m＜ショートトラック＞での記録)
・CR31　世界記録②　→　直走路でしか認められない競技(屋外・室内共通)

・CR31　世界記録③ → フィールド競技は「屋外」「室内」の区別なし
・CR31　世界記録④ → 風の測定
・CR34　日本記録① → 記録分類の変更　日本記録の対象となる種目、公認記録の対象となる種目を明示
・CR34　日本記録③ → 新たな種目（500m、600m等）は施設用器具委員会による検定が必要なものもあり
→ どの競技場でも新たな種目ができるわけではない
国内の 200m 常設公認トラック 2 カ所、国内常設室内公認競技場 4 カ所（2023 年度）
→曲走路で 110m を実施可能だとしても記録として認められない（世界記録②）
→これまで公認記録と日本記録の関係が曖昧だった点をベン図で表記した。
→このタイミングでの修正背景として、選手のランキングを大会ごとのパフォーマンスにより点数化 する国際的な流れの中で、ある種目（例：400m）に対する派生種目（例：500m、600m）への点数化を含む、強化委員会からの意見を踏まえ、整理した。
→新種目については施設用器具委員会による検定が必要なものもある。
→今後、新種目の実施を検討する場合は、これらのことを念頭に置いて欲しい。
・TR4.3　同時申込 → WRk では原則を適用。〔国内〕HJ と PV は事前に申告すれば無効試技扱いとすることができる、の適用は不可
・TR4.4　参加の拒否 → 国内でも適用可能に変更（主催者判断） 適用する場合は要項・注意事項等に記載
（必ず適用しないといけない規則ではない）
・TR5.2　競技用靴底厚変更 → 2024 年 11 月 1 日～（ルールブック記載済）
・TR6.4.5 許可される助力（フィールド種目の競技者によるビデオ映像確認）
→ 要件緩和 録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる。
競技者が手に持って操作確認が可能に。「できなければならない」という規則ではない。
※競技場により手渡しできないケースに対する、コーチボックスの FOP 内での設置を義務付けするものでなく、選手間の平等性を確保することが本条項の狙いであることに留意。
・TR7　失格 → 警告および失格に関する条文番号の変更
・TR8.4　トラック種目のスタートに関する現場での抗議（競技中の抗議）
→ SIS 使用時のみ、国内でも適用可能に変更（主催者判断）
抗議中として競技することを認めた場合、競技者に「赤白カード」を提示
→ 適用する場合は要項・注意事項に記載
・TR8.5　フィールド種目の現場での抗議（競技中の抗議） → 国内でも適用可能に変更（主催者判断）
・TR16.5.3 スタートの中止事由の見直し → ～その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時
（運用については、本会議「スタート関連」にて説明）
・TR17.1　レースにおける妨害 → 別の競技者が妨害行為の責任があると審判長が判断した場合に変更
・TR17.10、17.12 風力計測 → 新種目の計測位置と計測時間
・TR20.4　シードレーン → 種目によって変わる。〔国内〕TR20.4.3～20.4.5 に加えて、従来通りでもよい
・TR24.11 リレーオーダー用紙提出締切り時間 → 〔国際〕は変更になるが、〔国内〕変更なし
・TR30.1.1、TR32.14 フィールド競技の跳躍時・投てき時の靴紐等の扱い
→ 靴紐等が足留材に触れても無効試技扱いにはならないことの明確化
・TR32.1　WRk で使用する投てき物 → WRk 大会で使用する用具は WA が定める認証品のみ（JAAF 検定品含む）を使用可。
ただし JAAF 検定品であっても WA 非認証品は使用不可
競技場によっては「競技場備え付け投てき物」のみで WRk 大会を開催できない可能性有
競技場備え付け投てき物のチェックが必要
・TR32.2　個人持ち込み投てき物の数 → 〔国際〕主催者が用意したものと同一モデルでも2個まで持ち込み可能に変更
〔国内〕変更なし。但し、国内大会でも国際に適用可（主催者判断）
・TR38.7　やりの穂先の角度 → 金属先端部の 3mm 部分は角度（40 度以下）を無視してもよい
・TR38.10 やり（男子 U18）規格 → 2025 年 4 月 1 日から変更
・主催者判断による〔国際〕を国内適用とできる主な条文
・WRk → 必ず適用しなければならないと明記のあるもの、競技者に WA 規則よりも多くの権利を与える（有利になるもの）を除き、国内規則の適用で可

＜質疑応答＞
【鹿児島・中江氏】TR4.4 について、WRk 大会では適用するのか。
【片岡裕委員】選手の競技会に対する姿勢の問題である。どちらでも構わないのが結論。
【鹿児島・中江氏】そうなると価値観の問題ではないか。主催者判断で適用していいのか。

【片岡裕委員】そのとおりである。主催者で決めていただいてよい
【鹿児島・中江氏】リレーのオーダー用紙の提出について。招集時刻は1組を基準に設定するのか、それとも各組ごとに設定するなど主催者判断でいいのか。
【片岡裕委員】ルールには記載がある。大会の規模に応じて、主催者判断で提出時刻は決めてよいが、有利になることがないように
【千葉・新村氏】投てきのファールついて。サークルの外側に落ちたメガネをサークルの内側から拾った場合の措置。
【片岡裕委員】投てき後に正しくサークル等を出てから、拾わせるよう指導してほしい。

WRk 大会について

鈴木 一弘 委員長

・申請はオンラインに移行した。開催60日前までに申請する。申請料も必要である。
・WRk大会は、WA規則を準拠。大会終了後24時間以内に記録を報告する。
・WRk大会は、国際大会の参加標準記録、ワールドランキングの対象となる。
・加入団体、行政や新聞社、実行委員会が主催する大会がWRkの申請をしていない場合がある。注意が必要。
・2025年からEカテゴリーのWRk大会は、クラス2以上の競技場が必要となる。
その他資料参照。

＜質疑応答＞
【滋賀・小島氏】高校生の県大会でもWRkの申請を要すると伺ったが、例えばその場合、フィールド競技では、一投一測及び一跳一測と都度計測しなければならないのか。また、カットラインを設けるのはどうか。
【中村幹事】高体連事務局長として、現時点、都道府県大会においてWRkを適用するかどうかは、陸連の強化からも話が降りてきていないため、適用可否の検討まで至っていない。
【鈴木委員長】フィールド競技の計測については、一試技ごとの計測が原則であり、ペグを使わず計測してほしい。また、カットラインも設けるべきではない。

分科会1
公認競技会申請

鍋島 太一 委員

・昨年度と同様の申請である。ただし、今年度からWRK申請の項目欄を追加した。
・一次申請(エクセルデータ)での申請期限は2月末日まで。3月1日以降は、システムでの変更のみとなる。
・2025年度以降、競技会コードの見直しがある。

日本記録申請

岩脇 充司 委員

・公認競技会申請の補足:WRk申請の項目について、WRk大会の申請が終わった訳ではない。各団体から大会申請をする必要があるので注意する。また、「どの競技会がWRk大会なのか、一覧で分からない。」とご意見をいただいたので、審判員、競技者が判別できるように項目を追加した。
・日本記録の申請について、ルール修改正により風力の要不要があるので注意する。また、日本記録の申請用紙も一部変更があるのて確認をお願いする。
・日本記録の追加認定について、記録を公認申請しても日本記録の申請を忘れている場合が多々ある。公認申請とともに日本記録の申請をお願いする。

記録用紙改訂

片岡 典子 幹事

・ルール修改正により、抗議中での競技の記録について、競技終了後に記録用紙原本をコピーし、コピーした方に審判長裁定の内容を赤字で記入し、原本と一緒に保管する。
・略語・略称で英語の意味の部分について、WAで変更されているのだが今回の資料には反映されていない。報告書には訂正したものを掲載する。

広告展示物規程PTより

田中 康之 委員

・国際競技会におけるアスリートキット

(1)表示サイズとスポンサーの拠出数の変更。①非営利団体名②営利団体で区分。
(2)その他アクセサリー、個人所有物、セレモニービブスでも変更あり。
・国内広告規程について
(1)C7.1について
①1.1.1適用競技会　別のところに表示されてたものを追記し、本来あるべきところに掲載した。
②1.3.1大会主催者独自の規則作成と告知、〈注意〉 WA-C7.1 1.3に1.3.1を追記した。
③C7.1巻末　適用競技会における主催者責任、広告規程管理責任者任命の推奨を追記した。
(2)C7.4について
① 5 アスリートキット【衣類／ユニフォーム】
・所属団体名／ロゴについては変更なし。
・スポンサー名／ロゴの数量について変更。従来、製造会社名／ロゴを含めて2つまで → 3つまで。
・誤解を避けるために、日本陸連としての広告規程ではユニフォームにスポンサーの掲出は「可」としているが、高体連、中体連として別途規程があり、掲出できない場合があるので、注意する。
② 6.5 医療用テープ、一般テープについて[国内]を追記した。
(3)C1.2付録およびC1.4付録について
・競技場の展示物の扱いについて、ダイヤモンドリーグ／コンチネンタルツアーはWA規程を必須適用、それ以外の競技会ではWA規程は任意適用とする。
・国内競技会における展示物の扱いは、WA規程＋[国内]規程を基準として運営する。
・競技会での運営・運用事例
1)競技注意事項に表示をしてきたが、競技会要項(競技会開催案内)にアスリートキット規程を明示する。(図表も利用して。)また、参加競技者が限られる競技会については、WEB等も利用して事前チェックを実施することも効果あり。
2)現場での対応について、WAより「過度にマスキングはしない。注意して次から是正されるのであれば尊重して対応。」ユニフォームに関して、場合によっては厳重注意の上、そのままもあり。かなりひどい場合、次回以降、参加が認められない可能性を指摘する。その他アパレル等について、着用しない、マスキング、裏返し等、臨機応変に対応する。マスキングをする場合、隠すべきはしっかり隠すことが望まれる。

分科会2
S 級審判昇格審査報告

青柳 智之 幹事

・2023 年度申請者 181 名に対して候補者 176 名
・2024 年度申請より講習会開催実績報告者は当該年度のみ提出
・不合格者の内訳
・昇格審査におけるお願い

審判ハンドブック PT より 配布資料参照

審判育成・研修 PT より

赤峰 俊彦 委員

WA ブロンズレフェリー養成について
・2026 年より国内で開催されるすべての WA ワールドランキング対象大会で、審判長や審判主任を務めるにはブロンズレフェリー資格が必要
・2024 年 5 月以降に試験を予定
・受験資格…JTO を1期以上務めた人、NTO 資格を持った女性、各都道府県陸協が責任をもって推薦する女性(WA から女性のジェンダーバランスを増やすよう要請)
・日本語でのオンライン試験
・各都道府県で受験する人の選考を進めて欲しい

JRWJs セミナー・認定試験について 配布資料参照

2023 年度 JTOs 活動報告

羽田 雄一 幹事

・7 期 JTOs の 7 名を加えて 55 名体制で対応
・報告事例① →1レーン競技者が号砲前に飛び出し(不正)→2レーンもつられて飛び出し不正の判定→抗議中で走ることを希

→審判長裁定通り失格の判定→国際扱いとして、選手に説明。2024 年度から対応が変更となるので、気をつけていただきたい。
・報告事例② →スタート直後の大障害にトップの競技者が踏切に失敗し、大障害が倒れる。再レースを実施。
・特に大規模大会では、抗議・上訴の手順をしっかりと確立・把握しておくこと

分科会報告

岩脇委員・関根副委員長

・分科会 1　競技会公認申請、記録公認申請、記録用紙改訂、広告展示物 PT について
・分科会 2　S 級昇格審査、ハンドブック PT（スタート）、研修、JRWJs セミナー、JTOs 派遣報告について

施設用器具委員会報告

高木 良郎 施設用器具委員長

・WRk 国際道路コース計測員を任命
・やり先端部分
・陸上競技場公認の細則の改正
・技術総務の派遣
・競技会での注意事項
→ 公認種目設定による対応 標識タイル設置の考え方
→ 500m はセパレートで行うためスタートラインのタイル設置、600m はメドレーリレーのタイルを利用
→ 秤の調整 必ず 10kg の確認
・WRk 大会での投てき物の使用
→投てき物のリストには WA 認証番号と規格（色）を記入する
→持ち込みには WA のシールがあるかどうかで判断。シールがない場合はその証明がされたものを持参する。

海外競技会報告

関根 春幸 副委員長

例えば言語について、当然日本語が通じる訳ではない。さらに、英語についても通じない地域は多い。昨年10月に中国で開催されたアジア大会にスタート審判長として派遣されたが、スタートチームでも英語を話せたメンバーは数名であった。また、ドバイにITOとして派遣されたとき、男女の上下関係や組織のヒエラルキーにより、ボスでない私自身が直接指示をしても何も聞かないうえ動かないといった状況であった。そのほか、地域や国によってローカルルールが存在する。ゴールドレベルでもITOに至ってもローカルルールを持ち出すものも存在する。そのような中、ルールブックを基に説明を行い納得の上、競技運営を進めなければならない。また、少数の審判員で国際競技会運営を行う中、一人ひとりが審判員に選ばれたという誇りを持ち競技運営に対応をしているため、こちらからも感謝や誠意を持ったコミュニケーションが非常に重要であり、競技会後半につれよいチームが完成していく。今後、国内でも2025年には東京世界陸上、2026年には愛知県にてアジア大会が開催される。我々日本人もブロンズ資格を持った競技審判員が主任に選ばれると思われるが、自覚と誇りをもって競技会に臨んでいただき、上のレベルの競技役員から技術や知識を習得し成長に繋げていただきたい。そして、引き続き、皆様の経験や知識をもとに、競技会運営に協力いただきたい。

スタート関連

本橋 郁子 副委員長

・競技規則の修改正があり、日本の運用と海外の解釈との溝を埋めることが必要。
・局所的な動きがあった場合には、修改正されたTR16.5.3によって対処される。しかし、初心者レベルの競技者や競技会では撃ち戻ししてもよい。その場合には、大会総務、審判長、スタートチームで内容を共有して運営にあたる。
・各競技団体へ、競技者、指導者に周知をお願いしたい。

競技会報告（配布資料参照）

①日本選手権／U20日本選手権（大阪）
②日本選手権混成／U20日本選手権混成（秋田）
③インターハイ（北海道）
④全中（愛媛）
⑤特別国民体育大会（鹿児島）
⑥U18／U16陸上競技大会（愛媛）

＜質疑応答＞

【長崎・近藤氏】不正スタートをさせた選手のYCは理解したが、実際不正スタートをした選手はDQ扱いとなるのか。

【本橋副委員長】影響を受けて不正スタートを生じさせられた選手はDQ扱いとならない。さらに補足すると、局所的な動きに対してつられた場合を説明したが、不正スタートの選手につられて出てしまった選手の場合、先に不正スタートした選手は当然DQとなる。なお、当該選手がつられたかどうかは、スタートチームの判断となり、明らかにつられたということであればお咎めはない。

【鹿児島・中江氏】つられてしまった選手への判断について、ルールブックでは、厳格につられてしまったどの競技者も不正スタートになると記載されているが、先ほどの説明ではお咎めがないということである。つられた、かつSISにおけるリアクションタイムが0.1秒以内にスタートを切った選手であっても不正スタートとならないのかどうか。

【本橋副委員長】TR16.8の注意書きに記載されているように、厳密にいうとつられた競技者も不正スタートとなるが、スターターは不正スタートをした責任があると判断された競技者に警告や失格を与える。ケースに応じて現場でSISのデータやリコーラーの報告なども参考にし、スターターに裁定をしていただく趣旨である。よって、スターターがつられたと裁定した場合にはDQとはならない。

【鹿児島・中江氏】例えば、選手がつられたから出たとその場で抗議がなされた場合には、どのような判断となるのか。

【本橋副委員長】SISを使用している場合にはリアクションタイム（波形）も参考にし、SISを使用していない場合には、スターターやリコーラーが監察した状況によって判断されるべきと考えている。

【関根副委員長】明らかにつられて出てしまったことを、審判長やスターター、リコーラーが確認できればDQとならず、その原因を作った選手に対してはYC若しくは不正スタートであればDQとなる。特にSISを使用している場合、様々な状況を整理しスタートチームにて慎重に判断し対応いただきたい。

【島根・松本JTO】特に地方大会ではSISがない場合が大半であり、不正スタートを誘発する動きを判断することは難しいため、ビデオ撮影など何らかの証拠を残す大会運営が必要と考えられる。また、競技者が少しでも早く動作をしたとスターターが判断した場合には不正スタートとなると、TR16.7.1及びTR16.7.2が設けられている。一方、注釈のⅱでは、「手が地面からあるいは足がスターティングブロックのフットプレートから離れた場合、不正スタートとする」と表記されており、矛盾していると思われる。よって、飛び出さない、手が地面から及び足がフットプレートから離れなければ不正スタートとならないという統一見解で良いか。

【本橋副委員長】SISが使われない競技会が圧倒的に多いと思われるため、現場での判断が重要となる。また、不正スタートはTR16.7.1に記載の通り、地面から手がフットプレートから足が離れようとするあらゆる動作もスタート動作の開始とみなされている。手や足が離れることだけが不正スタートではない。

【島根・松本JTO】動画の事例（局所的な動き）も含め、スタート動作として不正スタートとみなされるということでよいか。

【本橋副委員長】局所的な動きとスタートの開始の動きは、全く別のものである。局所的な動きは瞬間的なものでスタート動作にはつながらない。よって局所的な動きは不正スタートではない。

【関委員】動画の事例については、スタートに至っていないものの、当該選手の波形を確認しYCと判断している。号砲前のすべての動きが不正スタートになるものではない。ルールブックP.137のグリーンノートに記載の通りである。

【関根副委員長】原文の和訳に一部誤解を招く表現があるため、次のルールブックの修改正の際、日本語について改めて精査し統一した理解ができるよう記載する。

【神奈川・宮田JTO】事例の動画からは右足が完全に離れたように見受けられたが、不正スタートではないのか。

【本橋副委員長】当該事例では号砲の後に足が離れているので、不正スタートではない。

【中体連・中村氏】昨年の全国会議において、駅伝のユニフォームについて下は統一する必要はなく主催者側の判断ということであったが、全国中学校駅伝ではリレーと同様に同一のユニフォームとした。この点、例えば、リレー自体が緩和される方向にあるのか、もしくは駅伝は非公認であることから主催者判断となるのか、今後の方針について教えていただきたい。

【片岡裕委員】ルール上、全国大会レベルではユニフォームは統一と表記されている。そもそも統一する背景として、ジャッジ上、ユニフォームの上を見て判断することが多いことから視認性を求めている。視認性が保たれれば、リレー及び駅伝においても主催者側判断でよい。

【滋賀・長谷川JTO】ユニフォームの同一性について、陸連HP上、駅伝では下の色は問わないと記載されているが、先ほどの回答内容では、リレーにおいてもデザインや色は問わないとのことであった。説明内容とルールの齟齬が生じていると思われるため、どちらが正しいのか教えていただきたい。

【片岡裕委員】ルールブック及び陸連のHPにて記載の通り、全国大会レベルのリレーにおいてはユニフォームの形状は問わないがデザイン及び配色は同一であると訂正する。

【福島・田中 JTO】競技規則修改正のなかで、投てき競技におけるメガネを落とした事例があった。原則、サークルの後ろから出た後に拾うべきと理解したが、東京オリンピックの事例では、目の前に落ちた帽子を拾ってサークルの後ろから出た選手に対してファールとはしなかった。よって、サークルの後ろから出ずとも拾って後に出た場合でも問題ないと思うが、どのような解釈がよいのか。

【関根副委員長】周りの地面に触れず帽子を拾ったのであれば問題ない。また、サークルの後ろから出て試技を終了させていれ

ば、その後、サークルの前方に出て帽子を拾ったとしても何ら問題ない。

2025 年世界陸上について

鈴木 一弘 委員長

・陸連－東京都連携し、東京世界陸上財団設立。大会カラーは「江戸紫」
・期間は 2025 年 9 月 13 日（土）～9 月 21 日（日）
・休暇・職免の取りにくさが懸念。高校生の補助員不可、大学生はギリギリ夏休みなので可能か？
・TOKYO 2020 NTO の活用や WA レフェリーの導入、東京陸協、近県陸協に依頼
・競技日程の検討、マラソンコース検討はこれからである
・選手村は都内城南、ウォームアップ場は東京体育館、織田フィールド、東大駒場グランド、大井競技場を検討

事務局安心安全 PT

石田 夢 事務局員

・迷惑撮影の実体と対策について、全国にアンケートを実施した。70％が不審者の対応を経験（そのうち 40％が警察案件）。高校生が対象になりがちで、表彰式やフィニッシュ後、トイレなどで多い。
・リレー／駅伝のユニフォームについて。仕方なく望んでいないユニフォームを着用するケースがあるので、形状は揃っていなくても大丈夫だと伝えていただきたい。
・ロードレースでの助力について。レース中の負傷、疾病（低体温、低血糖等）への対応は積極的に行なってほしい
・運営車両の安全対策について。ドライバーの単独判断ではなく、競技役員の指示によって動くよう徹底してほしい

あいさつ

鈴木 一弘 委員長

昨年は 5 時間近い会議だったため、今回は 3 時間半に短縮した。加盟団体からのプレゼンはご遠慮いただいたが、参考になる点が多いので、各加盟団体で共有してほしい。また、資料も多く配付したので、各都道府県の会員に周知していただきたい。2024 年パリ五輪の選考会に向けて、皆さんのお力をお借りしたい。スタート関連に関しては、今後も様々なご意見を頂戴したいと思う。2024 年シーズンもどうぞよろしくお願いいたします。

事務連絡

町田 紀子 幹事

・S 級昇格対象者の漢字間違いは 2/13（火）18 時までに連絡してください。
・審判員手帳の発送は 2/21（水）以降となります。
・全国会議の短冊は全団体に郵送します。
・来年度は対面開催を含めて検討中です。

以上